



ふっこう訓練通信

令和6年9月／発行：葛飾区都市整備部都市計画課（担当：田上・石塚）／電話：03-5654-8382

柴又地区震災復興まちづくり訓練がはじまりました！

8月10日（土）14時から「柴又地区 震災復興まちづくり訓練 ガイダンス」を開催しました。

「震災復興まちづくり訓練」とは、柴又地区で震災を想定し「どのように住まいを再建するか」「どんなまちに復興していきたいか」を地域の皆さんと区職員で話し合う訓練です。訓練を通して、震災時に地域の皆さんと葛飾区と一緒に復興を進めていくための手引きとなる「柴又地区震災復興の進め方」をまとめる予定です。

この「ふっこう訓練通信」では、各回の訓練の様子をご紹介します。

当日の資料などは、区のホームページでご覧いただけます。

トップページ>くらし・手続き>安心・安全>防災・国民保護>震災復興まちづくり訓練について



ガイダンスの様子

ホームページへの
アクセス
はこちらから

今後の訓練スケジュール

会場：柴又地区センター 大会議室
時間：14時～16時30分

▶第1回訓練 令和6年10月5日（土）「復興の手がかりを探そう」

▶第2回訓練 令和6年12月14日（土）「被災後の住まいの確保、復興方針を話し合おう」

※次回訓練からでもご参加いただけます。ご興味のある方は、裏面案内よりお申込みください。
多くの方のご参加をお待ちしております。

※8/10のガイダンスまでにお申込みいただいた方は再度のお申込みは不要です。

どなたでも
ご参加いただけます！

ガイダンスを実施しました！！

ガイダンス（令和6年8月10日）

「事前復興まちづくりについて学ぶ」の概要

ガイダンスでは、地域の方々11名にご参加いただき、「事前復興まちづくりについて学ぶ」と題して、区の防災・復興対策や訓練概要の説明のほか、特別講演により被災から復興までの流れや事前復興の重要性について学びました。訓練の詳細は以下をご覧ください。

ガイダンスの内容

- (1) 発災からの避難・生活再開に向けて
- (2) 復興のイメージづくり(DVD上映)
- (3) 講演
「事前復興まちづくり訓練とは
～首都直下地震、どこよりも早く復興するために～」
東京都立大学 名誉教授 中林 一樹 氏
- (4) 今後の予定
- (5) 解説

(1)「発災からの避難・生活再開に向けて」

- ・震度6弱から6強の首都直下地震が発生した時、葛飾区では、283人の死者、4,589棟の建物全壊や5,137棟の焼失、区内広範囲で液状化の発生など大きな被害が想定されています（※）。
- ・発災直後は、まず自身の安全を確保します。その後一時集合場所にて近所の方々と被害状況を共有し、被害の程度によって、在宅避難または避難場所への避難や避難所生活が必要になります。
- ・地震発生時や復興時には、自助、共助、公助が相互に連携する必要があります。

※首都直下地震等による東京の被害想定（令和4年5月東京都公表、都心南部地震の場合）。焼失棟数は倒壊棟数を含まない。

(2) 講演「事前復興まちづくり訓練とは

～首都直下地震、どこよりも早く復興するために～

東京都立大学 名誉教授 中林 一樹 氏

●被災時を想定し、被災後どのようなまちとして復興していくか、日頃から想像することが重要である

- 地震はいつどこで起こるか予測できません。令和6年1月1日に最大震度7を計測した能登半島地震では、大規模な被害がありました。
- 火災被害のあった輪島・朝市通り地区などでは、今も復興まちづくりプランが作成されていません。復興が進んでいない理由の1つとして、地域に由来住んでいた方々が、住宅等の倒壊により、地域から離れて2次避難生活を送ることで、被災地の復興に関する話し合いが進んでいないことが考えられます。
- 被災後分散した地域住民が再集合するのに時間がかかることを想定し、日頃から地域全体や個人の復興をどのように進めていけばよいか、事前に想像し、復興の進め方を考え、準備しておくことが重要です。

この取り組みを事前復興といいます。この訓練は、そういう新しい訓練です。

訓練各回と全体の
アドバイス・解説をいただきます！



復興には、「被災地復興」と「被災者復興」の2つがあります。

- ①被災地復興：被害が集中した地区で、安全でより快適に住むことができるようにみんなで取組む復興まちづくり。
- ②被災者復興：罹災証明（居住者）・被災証明（事業者）を受けた被災者が、いかに我が家の生活や事業を復興させるかという被災家族の住まいや生活、就労等の復興。



特別講義の様子

柴又地区が被災した際に、より良いまちに復興していけるよう一人一人の被災者復興とともに、被災地復興についても一緒に考えていきましょう。

●災害に強いまちづくりには2つの「そうぞう力」が必要である

「超高齢社会」や「人口減少土地あまり社会」など、時代によって多様化する課題に適した災害につよい街づくりを進めるには、「想像力」と「創造力」の2つのそうぞう力で考えましょう。

想像による“事前復興”が、強靱な柴又地区を創造します。

【特別講演での質疑応答】

Q 被災により一度地元を離れた人が、再び地元に戻ってくる原動力は何だと思いますか。

A 地元に戻る最大の原動力は“人のつながり”だと思います。近年は、地域コミュニティの希薄化が進んでいますが、生活するうえで人とのつながり、ネットワークは必要不可欠です。今回の訓練を地域とのつながりについて見直したり、考え直すきっかけにもしていければと思います。

参加申込シート (FAX 送信用)【申込締切】10/2 (水) まで
葛飾区 都市整備部 都市計画課 宛 FAX: 03-3697-1660

フリガナ
お名前

連絡先 住所 〒

TEL



WEBでお申込みの方はこちら

二次元コードを読み込み、必須事項にご回答ください。
※FAX 送付の方は必要事項をご記入のうえ、こちらの紙面をお送りください。
※収集した個人情報は本訓練以外の目的で使用しません。